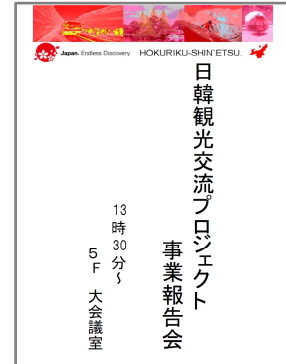


日韓観光交流プロジェクト事業報告会

4月21日(水)北陸信越運輸局において「日韓観光交流プロジェクト」に関する報告会が行われました。当日は、本プロジェクトの対象地域である雪国観光圏(新潟他)の他にも、にいかわ観光圏(富山)日本海きらきら羽越観光圏(山形他)佐渡や石川県の自治体関係者等々、遠くからも多数ご参加頂きました。合計約40名の観光関係者が集まり、今後の日韓間の観光交流について様々な議論や意見交換が行われました。



このプロジェクトは、日韓双方間の観光交流需要の拡大に向け、日韓の航空・鉄道事業者3社(ANA、アジアナ航空、JR東日本)の企業間連携によって2008年に始まったものであり、日韓間における国際観光分野において両国交通企業が担う一次・二次交通間の連携を拡大するとともに、日韓双方における地方部の魅力を活かした個人旅行(FIT)商品の造成等を目的とするものです。また、日本側の観光圏は、着地型観光の開発と外客接遇環境を広域連携によって計画的に推進していく点においてFIT商品造成における重点地域に発展する可能性を有しており、今回のモニターツアーの対象地域として雪国観光圏と伊達な広域観光圏が選定されています。



モニターツアー募集 WEB 画面

本報告会では、まず、(株)ANA総合研究所 榎本通也氏から「日韓観光交流プロジェクト」の事業報告について以下の説明がありました。

現在、韓国の訪日旅行市場においてはFITが大半を占めている一方で、リピーター率は台湾等に比べ低い状況にあり、今後ビジットジャパン(VJ)事業を展開していくうえで、団体旅行とは質的に異なる誘客事業(商品造成・広告宣伝)が求められている。特に大都市に集中しているFITについて「地方の魅力ある観光自然を活かした新たな素材の開発」を目的に、日韓

交通企業3社の空陸交通の連携を強化し、FIT商品の造成に取り組む。FIT企画販売力の高い韓国旅行会社2社も含め、「日韓民間コンソーシアム」が主体的にモニターツアーを造成・募集を行いながら、共同広告宣伝やアンケート調査を行う、というプロジェクトの概要について説明がありました。その後、モニターからのアンケート分析やツアー実施後のプロジェクト評価に基づき、以下の提言がありました。

ネット社会である韓国では、ウェブプロモーションが鍵。ポータルサイトによる第二次情報(テーマや口コミ情報)充実が有効な東京等大都市部と相違し、地方部では、旅行会社ウェブを中心とした、商品と連続する第一次情報(旅行イメージ)が有効。その上で、FITは「安心・安全」に関する情報(JR時刻表、食事、地図、イベント等)を必要としている。

韓国旅行会社は「商品企画及びプロモーション」準備に長くて半年間はかけており、共同広告事業では十分な準備期間が必要。

鉄道旅行については「雪景色が神秘的」との意見や、新幹線での東京と地方の車窓風景の変化など好評を得た。同時に、移動に伴う心理負担を考慮し、目安として2時間台以内の行程で設計することが商品として有効。

観光圏や自治体では、着地型詳細情報や、地図・パンフレット類の「電子データ」提供による韓国側のウェブ編集効率化など、民間商品造成との連続性を高める「観光圏のサポート」強化を要望している。

次に、雪国観光圏(雪国の宿「高半湯守り」高橋五輪夫氏より「雪国観光圏のインバウンド戦略」についての説明がありました。具体的には、冒頭「インバウンドという黒船をみた」というインパクトのある話から始まり、欧州での旅行博をみて痛感した日本観光とのプロモーションの違い、雪国観光圏のインバウ



ンドには戦術ではなく戦略が必要、インバウンド事業展開のイメージについて旅館を経営している実践的な内容を踏まえた説明がありました。特に、欧米と日本の観光プロモーションの違いについて、日本は施設や名所の紹介のみに留まっていてお客様の過ごし方が見えず、常に新しい企画を前面に出し、インセンティブをつけてでも数を稼ぐような不安定な商売であるのに対し、欧米では、変わらない価値観こそが観光資源であるとし、良いものを理解するお客様

が地域を作っているという点が大きく違っている。観光圏の中で、宿泊施設をカテゴリー化（星付け）していききたい。バックパッカーが気楽に泊まれるような民宿とか、4つ星ではジーンズだと少し恥ずかしい等、旅行者が来る前にイメージをつかめるようなものがあると良いので、検討していききたい。という話でした。

続いて、北陸信越運輸局 国際観光課長から「北陸信越運輸局の韓国市場に対する事業方針」として、管内の韓国人旅行客の動向や韓国市場動向などについて説明を行い、最後に意見交換の場がもたれました。意見としては、韓国では日本の宿泊施設のイメージが少なく、例えば、現状では「客間に布団を敷いた写真」や「家族で朝食を食べている写真」などの情報がほとんど無いため、実際にどういう体験ができるのかが分るようなパンフレット等の情報発信が必要、等々、とても興味深意見が出席者から発言がありました。

意見交換の場では、管内各観光圏の皆様より現在の取り組み状況や課題などについても多くの発言があったほか、報告会終了後も、参加した方達の間で名刺交換や意見交換の続きを話される姿が多数見受けられ、ネットワークの広がりも見られるなど、参加頂いた方々の関心の高さが伺い知れる報告会となりました。

当運輸局としては、今後もこうした勉強会や意見交換等を開催し、ノウハウの共有や情報発信の場を作っていきたいと考えております。